

丸森町（丸森中学校区）の取組

【推進校】

丸森町立丸森中学校

【目 標】

実践体験型PBL（Problem Based Learning）の手法を用いて、丸森の自然や文化、産業の特色と課題を見つけ、地域に暮らす人々と課題を共有し、自分たちができる解決策を見出し、発表・実践を通して、より良い生き方を求めるとともに、地域の一員としてより良い地域づくりに貢献する生徒を育成する。

【取組の概要】

丸森町にある課題を見つけ、FPM(Future Project for Marumori)案（課題の解決策）を見出し、それを地域の人に提案または実践する活動に取り組みました。

①丸森町の良さと課題を考える



丸森町を見直すために、15人ほどのグループで丸森町の良さと課題を出し合い、ウェビングマップにまとめました。

②より良い丸森の未来を考え、問いを立てる



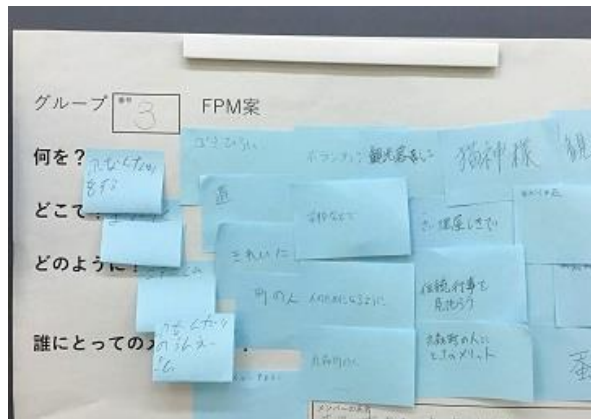
宮城教育大学の本図先生に助言をいただきながら、自分たちが考える課題について、「問い」を立てました。

③丸森町で働く人の話を聞く



丸森町で働く人や丸森に移住した人から、丸森で働くことや丸森の良さと課題、解決のヒントを話していただきました。

④地域の課題へのFPM案の原案を話し合う



これまでの学習を整理し、より良い丸森のために、FPM案の原案を話し合い、訪問する事業所の候補を考えました。

⑤地域を訪問し、課題の現状をくわしく知る



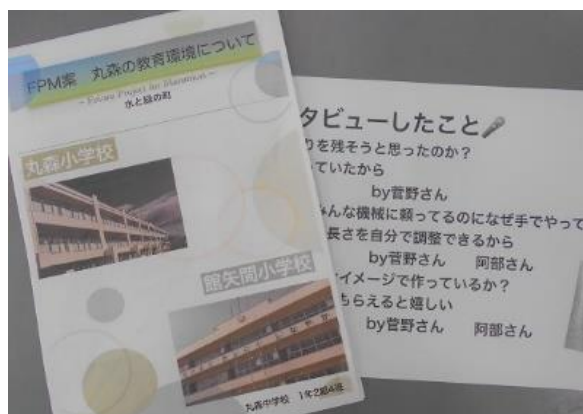
自分たちの考えた問いをもとに選んだ事業所を訪問し、取材や体験活動をしました。この活動を通して、課題の現状を深く知ること、関わっている人の思いや考えを知ることができました。

⑥発表会を開く



事業所訪問を終え、練りなおした FPM 案を保護者、事業所の方々、地域の皆様に発表し、助言や意見をいただきました。

⑦ FPM案を伝える



FPM の最終案をまとめました。リーフレットにまとめて駅やお店に置いたり、事業所に行って提案したりしました。

【成果と課題】

- 生徒が地域に出て、地域の課題を見だし、解決する活動は、生徒の社会参画や地域貢献の態度を育むことにつながった。また、実践体験型 PBL の手法を行うことにより、生徒の課題解決能力が向上した。
- 12月に行ったアンケートの結果から、「自分にはよいところがある」「地域や社会をよくするために何かしたい」「総合的な学習では自分で課題を立て、情報の収集や整理をし、発表する活動に取り組んでいる」の項目で「当てはまる」と答えた生徒の割合が増加した。
- FPMの最終案を、授業時間内に作成できなかったグループが休み時間や放課後に自分たちで集まり話し合い、放課後に事業所を訪問する等、自主的に活動する姿勢も見られた。
- 志の育成、非認知能力の向上、課題解決学習のスキルの習熟など、指導計画を吟味し、生徒も教員もねらいや目指すべき姿を明確にし、計画的に学習を進める。
- 地域との連携や小学校との系統性など指導計画の改善の視点を増やし、より良い方法を模索する。
- 指導する教員が技量の向上を図り地域のことをもっとよく知ること、生徒の活動及び資質能力の育成のために効果的な指導ができるようにする。